

アドヴェント前の十一月末にキリスト教保育の軸についてキリスト教保育カリキュラム委員長大瀧知子先生より大変貴重なお話を伺い、参加者は思いを新たにクリスマスへ備えの大切なひと時を共有することが出来ました。中堅保育者研修会でしたがせっかくなので一人でも多くのの方に聴いて頂けるようご配慮くださり、キリストの香りのする優しい穏やかなお声を通して癒しの時を与えられ子ども達と過ごす現場でのお話を織り交ぜながらの豊かな学びの時となり、感謝でした。

常に葛藤や問いがある中でも、キリスト教保育の現場に置かれていくかえがたい喜びがあり、『保育者としてまずは自分自身が御言葉に生かされて豊かに生きるために礼拝が欠かせないこと。神さまから託された大切な子どもたちひとりひとりと向き合い、聖書に示される枠の中の自由(自発性)を尊重し、成長を信じて待つこと。保育の原点をしっかりと柔軟に、でも決して流されず軸を見定めること。チームで保育をする中心には祈りが欠かせないこと。保育環境を整え、見通しを立てる保育をすること。子どもたちとの礼拝を(こころを)あわせて共に守ること。』などで豊かな保育が紡がれることをわかりやすくお話しくださいました。

最後に、クリスマスに向けての楽しいダンスや賛美を共に分かち合うプレゼントがあり、平和をつくり出す人として子どもたちが成長するように、主のことばに満たされて保育者同士が響き合い、祈りつつ互いに歩みましようと思ひこくられ、大いに励ましと力を頂きました。
あなたの御言葉は、わたしの道の光
わたしの歩みを照らす灯。(詩編119:105)

役員会報告

書記 島義信

役員会は、九月二十六日(木)戸塚ルーテル教会附属幼稚園

十一月二日(木)高座みどり幼稚園
十二月四日(水)清水ヶ丘教会
一月二三日(木)高座みどり幼稚園にて開催されました。

◆夏期講習会
八月二十日(火)捜真学院チャペルにて開催されました。藤本忍牧師による礼拝。東義也先生/尚綱学院大学の講演、分団など。

◆中堅保育者研修会
十一月二七日(水)十五時半〜十七時、関東学院大学関内メディアセンターにて大瀧知子先生/東洋英和女学院大学附属かえで幼稚園園長。

◆第二回講演会
十一月六日(水)一五時半〜野毛山キリストの教会にて開催。藤田智(さと)教授による園での栽培・保育環境、子どもがする事、先生がしなければならぬ事。

◆クリスマス礼拝
十二月四日(水)一五時半〜清水ヶ丘教会にて宮川周子牧師のメッセージによって守られました。

◆設置者・園長・主任研修会
十二月二六日(木)一三時〜一七時 関東学院大学関内メディアセンターにて開催。講師は「死を招く保育」著者、猪熊弘子名寄市立大学特命教授。

◆保育環境研修会
一月八日(水)一五時半〜私塾まきばの海を臨む丘の上の豊かな自然の中での保育について山田雅井園長先生より実践を通じたお話しを伺いました。

◆プロジェクト委員会
一月八日(水)研修後、担当ごとに引継ぎや仕事内容、連絡方法などを確認した。新規加盟園などを含めた輪番表を作成させていただきます。準備ができ次第、配布いたします。

◆二〇二〇年度計画
・神奈川部会総会 四月一六日(木)一六時〜清水ヶ丘教会
・新任歓迎会 四月二二日(水)野毛山キリストの教会
・講習会 六月十日(水)野毛山キリストの教会
・新任保育者研修会 五月二七日(水)
・園長設置者主任研修会 八月二四日(月)午前
・夏期講習会 八月二四日(月)午後
ご予定ください。

◇発行日 2020年3月16日
◇編集者 神奈川部会 広報担当 関東学院のびのびのば園/浦尻友紀 百合丘めぐみ幼稚園/大谷真理子
◇デザイン 永野絵理世
◇イラスト提供 関東学院のびのびのば園



●●● 編集後記 ●●●
思いもよらない状況になった2月末日、森に行きました。いつも以上にはしゃぎ、動き、喜びを溢れさせた子ども達。非常事態で閉塞する社会の空気を、どれだけその身に受けていたか。どんな時でも主の導きを信じ、子どもの心にしっかり寄り添いながら歩みたいと思います。各園が祝福の入園式となることを祈ってなりません。

部会だより

キリスト教
保育連盟
神奈川部会
2020年3月16日
第137号

キリスト教保育連盟 神奈川部会 2019年度主題

ことばに満たされて 聖句「その人は流れのほとりに植えられた木」
〜ひびきあう〜 一詩編1編3節



「♪ちいさなはたけをたがやして〜、
ちいさなたねを〜まきました〜♪」

認定こども園 宮の台幼稚園
園長 島義信

ある種は道端に落ち、鳥が食べてしまった。ある種は石だらけで土の少ないところに落ち、日が昇ると焼けて枯れてしまった。いばらの中に落ちた種はいばらに覆われ、実を結ばなかった。ほかの種は良い土地に落ち、芽生え、育つて実を結び、あるものは三十倍、あるものは六十倍、あるものは百倍にもなった。
「種」はイエス様のお言葉、聖書のお話です。柔らかい心で、み言葉を受け止め、しっかりと根を張れる良い土地であるように、お話を聞くことが大切です。私自身もそのことを小さい時から聞かされてきました。

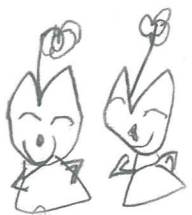
◆ 聖句 ◆
「ほかの種は良い土地に落ち、芽生え、育つて身を結び」
マルコによる福音書 4章8節

しかし若い頃は、お話しを聞いても眠かったり、他の事を考えていたり、固く石の上の心でした。日曜日に教会へ行くよりも部活や友だちとの付き合いが大切に思えていばらの中にもいました。
鎌倉教会のロビーにミレーの「種をまく人」の絵画が飾られています。本物は山梨県立美術館やボストン美術館でも見る事ができます。私はこの絵が好きになりました。特に「種をまく人」の力強さが好きです。ヨーロッパの種まきは日本の田植えとは対照的で、ミレーの絵の様に広大な土地を大股で歩きながら大雑把に種をつかんで遠くまで投げて撒くそうです。だから力強く投げける農夫が描かれています。種をまく人はイエスさまですが、私は幼稚園や日曜学校の教師をする生活の中でミレーの絵画と出会い、私も種をまく人になりたいと思うようになりました。正しくは種をまくイエスさまのお手伝いをするという事でお手伝いしたいのです。
小さな幼稚園での小さな働きです。丁寧な子どもたちとの礼拝や保護者、あるいは職員の方々に向けて聖書のお話を通して、み言葉の種をまきながら、種を受け入れる畑を柔らかく耕し、石を取り除き、雑草を抜きつつ、種を育てて

たくさん実がつくように育てていきたいと思っています。
手遊びの「ちいさな はたけを たがやして〜、ちいさなたねを まきました〜♪」の様に、グングングン芽が伸びて花が咲くお手伝いをしていきたいです。子どもたちや保護者、職員の方々がやがて人生の中で気づいたら、根をしっかりと張り、たく生きて豊かな実りを得られるように耕し続けて種を撒いていきます。



入園式の持ち方



新しい出会いに

心を寄せて

社会福祉法人雲柱社

白百合幼児園

副主任 福田幸子

認定こども園になって、今春三度目の入園式を迎えます。0歳児の乳児も保護者の膝の上に座り出席するので、礼拝堂での式はごく短いものになっています。式では新入園児の名前を一人ひとり呼ぶ事を大事にしています。今日から共に歩んで行きましようという思いを込めてゆつくり呼びかけ、返事がなくても、泣いていても、ありのままを受け止めることにしています。そして、在園児と職員がこの日を心待ちにしていたことを伝えます。その後、保育室に案内して生活の流れなどを説明します。直接担任と話す事で安心感を持つていただけるようにしています。緊張感やストレスを感じることなく新生活を始めてほしいと思っております。

念写真を撮ります。

入園式は、新しい出会いを神様に感謝して喜び合う日にしたいと願っています。

入園式について

幼保連携型認定こども園

YMCAとつか保育園

園長 齋藤信

私たちの園は、今年度開園二十周年を迎えるとともに、保育園から幼保連携型認定こども園に移行しました。入園式は姉妹園であるYMCAとつか乳児保育園と合同で、礼拝としておこなっています。

今年度のプログラムは次の流れでした。①新入園児のお名前を一人ひとり呼んであいさつ、②賛美歌「ことりたちは」、③聖書「ひかりの子らしく歩みなさい」(エフェソの信徒への手紙五章八節)、④お話とお祈り(園長)、⑤賛美歌「光の子らしくあゆみなさい」、⑥職員から歓迎の賛美、⑦礼拝に続いて記念撮影。

その後クラスに分かれて、職員や保護者の自己紹介、生活の説明や離乳食の試食などの内容で「はじめましての会」をおこないました。0歳児クラスのご家庭はほとんどが六年間過ごしていきますが、子どもたちもはきょうだいのように、保護者もとても仲良くなっていくのですが、その最初の出会いとなります。

入園式で私たち保育者が心掛けていることは、新しい皆さんと出会え



みんなそろって入園式

平塚教会附属
平塚二葉幼稚園

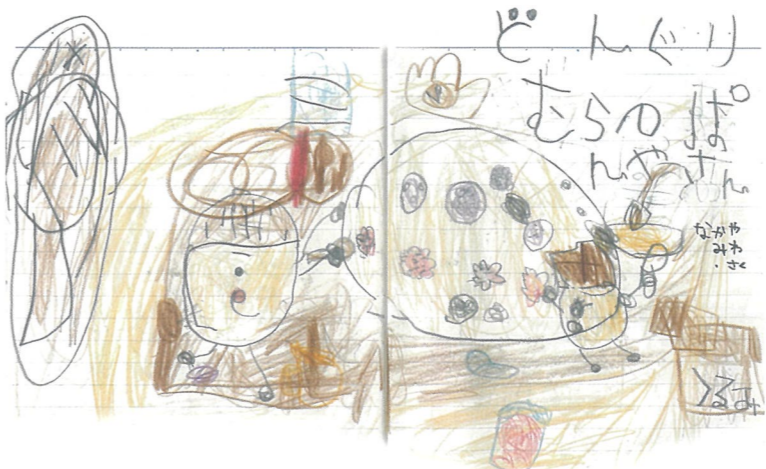
主任 関口華子

平塚二葉幼稚園は、平塚の地に平塚教会の附属幼稚園として九十六年前に開園致しました。現在は施設給付幼稚園となり、定員六十名で保育を行っています。本場に不思議なことには、毎年なぜかちょうど良い人数の園児が与えられます。

そんな神さまの祝福を受けた新入園児をお迎える、一生に一度、一番に残る「人生初の社会への一歩」である入園式は、時間は短く、でも内容は思い出に残るものを。を motto に組み立てています。小規模園ですので、普段の保育も全園児が一緒に遊んでいます。ですから、新入園児は当然在園児も全員でお迎えます。新しく採用された職員がいる年には、在園児の保護者も参加していただき、新職員のご紹介も兼ねさせていただきます。

「みどりのわかば」や「ちいさいおてて」を讚美し、職員全員が前に出て一言短く挨拶をします。次に担任が新入園児の名前を呼び、入園のお祝いに教会学校からいただく『こどもさんびか』を渡します。お母さ

た喜びと、これから始まる園生活に安心感を持っていただくことです。在園の子どもたちは、入園式の最も中も園庭や保育室で遊んでいます。新しく入ってくる子どもたちとの出会いをとても楽しみにしていて、会場を覗いたりして嬉しそうです。このようなアットホームな雰囲気、神様に守られて素敵な園生活がはじまります。



まのお膝にしがみついていた子もほとんどの子が「思い切って、一歩を踏み出します。(プレゼント欲しさに!?)」その後各クラスの担任からちよっとした手遊びをプレゼントします。子どもたちだけでなく、大人も楽しめるようにほんの少し工夫をするとちよっと緊張されていた保護者の方々も表情が随分と柔らかくなります。最後は「どの花見てもきれいだな」の歌詞を胸に「ちゅうりつぷ」の歌を歌い、牧師先生の祝福をもって終了となります。

毎年会場のホールに入れない子や、中央を走り回ってしまう子もいます。固まる表情の保護者に、先輩ママたちは、「うちの子もそうでしたよ。」とにっこり励まします。「懐かしいですね」と保護者と一年前、二年前を振り返るのも入園式の風物詩です。

入園式の持ち方(二考察)

あるお母さんの

入園式の感想

伊勢原幼稚園
園長 鈴木伸治

今日わが家の子どもの弟の入園式です。姉とは異なる幼稚園に入りました。いくつか心に残りました。幼稚園に行きますと、先生が入口に立っておられ、子供の名前を呼んで迎えてくれました。まだ入園してないのに、良く名前を知っていると思いました。入園願書に写真を貼っていたので、それで覚えてくださったのでしょうか。姉の幼稚園ではホールで式場で行われ、年長組や年中組のお友達が座っていました。新入園児は在園児の前に導かれたのでした。しかし、弟の幼稚園では式場ではなく教室で行われました。そこには在園児がいまませんでした。保護者と一緒に座りました。やがて、入園式が始まりました。みんなで「チューリップ」の歌をうたい、一人ひとり名前を呼ばれ、弟も大きな声で返事をすることができました。園長先生のお話です。「皆さん、今日から幼稚園のお友達になりました。毎日楽しく過ごしましょう。」と言われ、それだけでした。次に在園児が入ってきて、歓迎の歌を歌ってくれまし

た。最後に先生がバッチを付けてくれました。その後、手遊びがあり、それで入園式は終わりです。記念写真の撮影はありません。そのことは連絡されており、入園式は普段の服で登園してくださいということでした。姉の幼稚園の入園式では、園長先生のお話は、とても良いお話でしたが、長かったようです。来賓の紹介、祝辞を戴き、祝電の披露等一時半を要しました。さらに写真撮影で時間を要しました。それに対して弟の幼稚園は三十分も要しませんでした。入園式の帰り、何度も幼稚園を振り返りながら帰途にいたわが子でした。明日からの幼稚園生活に、親として希望を持った次第です。

